

世界へ 関西スピリッツ

宇治茶の産地、京都府南部の和束町。茶摘みシーズン（5月中旬）の5月、山斜面の茶畑では外国人観光客向けのイベントが開かれた。企画したりトアツキーテ（25）は英語で「茶の収穫時期は年3回。新茶を摘み、次は番茶が楽しめる」と説明すると、参加した外国人から驚きの声が上がった。

産から販売まで手掛ける同町のベンチャー企業、京都おぶぶ茶苑の社員。外国人に日本茶の魅力を知らせてもらうため、茶畑の見学会や抹茶作りの体験プログラムなどを企画し、自ら実行する。「煎茶に番茶、玉露など種類や味も様々。楽しみ方が幅広い」と誇らしげに話す。

母国で放映されたテレビ番組などの影響で、子供の頃に日本が好きになった。日本茶にのめり込

近畿

第3部 学び広めるJapan流 ②

お茶の魅力英語で伝道



外国人旅行者に茶の魅力を語るザバツキーテさん（京都府和束町）

むきっかけは2008年に入學した英国の大学。日本人留学生にいられても「一口で独特の深い甘み」のとりこになった。12年

抗がん作用があると言われるカテキンなどが含まれる日本茶は欧米で「健康的で長生きにつながる」とのイメージから人気が出ている。新興国にも愛飲者が広がって訪れたこと。だが、紅茶や中国茶に比べ知名度は低く、海外に発信される情報や販売量も少ない。

おぶぶ茶苑でも6年前から本格的に海外での普及・販売に取り組んでいた。ザバツキーテは13年4月に欧州で開いた日本茶を紹介するイベントを手伝い「もっとできることがある」と考え、同年12月に希望して正社員に任されることになった。現在はネット通販で世

に卒業する。新興国にと、旅行でも愛飲者が広がって訪れたこと。だが、紅茶や中国茶に比べ知名度は低く、海外に発信される情報や販売量も少ない。

おぶぶ茶苑でも6年前から本格的に海外での普及・販売に取り組んでいた。ザバツキーテは13年4月に欧州で開いた日本茶を紹介するイベントを手伝い「もっとできることがある」と考え、同年12月に希望して正社員に任されることになった。現在はネット通販で世

愛飲者増へアイデア沸騰

界約50万回・地域に輸出する業務のほか、交流サイト「フェイスブック」などを通じて日本茶を海外に紹介する事業を担当している。会社に外国人客が訪ねてくれば対応もする。12年に120万円だった海外売上高はザバツキーテが働きだしてから急増。14年は700万円を見込む。同苑副代表の松本靖治は「シモナがいなければ成り立たない」と全幅の信頼を寄せ

は当面日本を離れない。和束からお茶の魅力を世界へ発信する」との使命感を持ち、少なくとも5年は同苑で仕事を続ける考えだ。

世界に日本茶が広がる一方、日本の若者の中で関心が薄らいでいることが気になる。PETボトルのお茶は飲まれてい

「同世代の日本人にお茶の種類や急須でのいれ方を説明すると『すごい』と驚かれるのが悲しい」と顔を曇らせる。若い日本人にもどうしたらお茶のすばらしさを伝えられるかの思索も始めている。西洋から来た「茶ビジネスを始めよう」と考

「茶の伝道師」の挑戦はこれだ。しかし、今でも

日本の若者にも

来日当初は「3カ月学んだら英国で日本茶のビジネスを始めよう」と考